

古武道「二天一流」で見事難関の称号を取得



二天一流を始めて20年から30年の者が受験資格者という、古武道「二天一流」の称号検定試験に、亀井将さん（64歳、小野田）が見事合格されました（県内で2名）。

「二天一流」とは、剣術の一派で、祖は宮本武蔵。創始400年、二刀兵法（剣法）の技が特徴です。検定試験は、全国から受験者が集う中、形と推薦書で審査されました。

元郵便局員の亀井さんは現在、二天一流の指導者として月に一度、熊本武道館で講習に当たられるなど古武道の継承にも力を注がれています。剣道においても7段を有し、週3回練習に通う宮地の報徳道場でも後輩たちの良き手本となり一緒に汗を流されています。

宮本武蔵が兵法の極意を綴った『五輪の書』が愛読書という亀井さん。「この書で説かれる、『どんなに貧しくても礼・義を重んじる日本人の姿』を大切にこれからも鍛錬を続けます」と、小学4年から54年間、今も続く朝の素振りに、真の勇士が感じられます。

10月18日は相撲大会や夜渡神楽も



豊作を願う
火焚き神事

阿蘇神社の農耕祭事の一つで、国の重要無形民俗文化財に指定される、霜宮（役犬原）の火焚き神事が8月19日から始まりました。

健磐龍命と鬼八伝説でも知られる歴史ある祭事で、今年の火焚き乙女は2569代目となります。今年選ばれたのは、碧水小1年の藤川文音さん（下役犬原）で、神事では、祖母の州子さんに介添えを受けながら火焚き小屋に入り、宮司によりおこされた火を焚き始めました。

この火は、10月16日（乙女揚げ）まで焚かれ、年番の下役犬原地区の氏子が見守ります。10月18日は、例祭があり、相撲大会や夜渡神楽が行われます。



かかし作り大会！稲田に自慢の作品並び

内牧地区で、子どもも大人も集い、懐かしい「第1回かかし作り大会」が8月23日行われました。子どもの創意工夫と感性を養い、人とのつながりを育もうと公民館内牧分館（高宮晴夫館長）が実施したもので、作業中は昔の農業の話なども出て盛り上がり、特にかかしの顔描きはべっぴんかかし、イケメンかかしが出来、楽しい時間となりました。見事に、ユニークに完成した8体のかかしは、早速、秋晴れの花原川沿いの田んぼに立てられました。『田園風景にかかし』、鍋釣線らしい癒される景観です。

